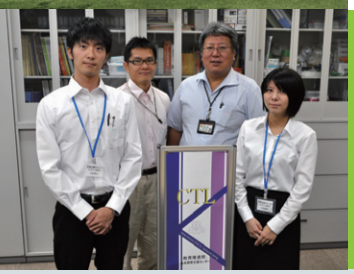

THINK × ACT
KANSAI UNIVERSITY

CTL Newsletter

Kansai University Center for Teaching and Learning

関西大学 教育開発支援センター
ニューズレター

December 2013
vol. 13

共に学ぶ者でありたい

教育推進部教授／教育開発支援副センター長　三浦 真琴

アクティブ・ラーニングとは行為・動作であり、あるいは状態・態度である。その動作や態度への到達、ハビトゥスとしての習得を願って、これを目標として設定することが可能となる。その目標を実現するために手法が編まれ、方略が組まれる。当然のことながら「手法」は「行為・動作」や「態度・状態」とは識別されるのだが、2012年の中教審答申は「アクティブ・ラーニング」を手法の総称として定義したものだから、心ある大学関係者は混乱し、困惑もしている。

アクティブ・ラーニングを標榜したGPを獲得し、その成果報告を求められるようになったCTLには講演会の依頼が増えた。しかしアクティブ・ラーニングを「手法」の用語・概念と認識しているためか、何かよいチップスはないか、ノウハウを是非教えてほしいというリクエストが事前に寄せられ、あるいは当日の講演に期待されることが多い。リクエストや期待には可能な限り応ずるようにはしているが、“How to teach”より“What (not) to teach”の方が肝要であると必ず伝えるようにしている。それはつまり学生をどのような学習者に育てたいのかということにつながることだからである。

先般の講演会では「ゼミはアクティブ・ラーニングに含まれるのでしょうか」との質問を受けた。19世紀のアメリカのカレッジで展開されていた復唱ばかりの授業や筆記学問に辟易していた大学教師にとって、ドイツの大学で始まったゼミナールは驚愕と羨望の対象であった。そこには瞳を活き活きと輝かせる学生、その学生と共に真理を探究する教師の姿があった。学生、教師がともに「学ぶ者（student）」として席を同じうするのがゼミナールである。即ち、ゼミとはアクティブ・ラーニングの場に他ならない。

そういえば世界最大の大学図書館ワイドナーの入り口辺りには「studentだけがこの図書館を利用できる」と書かれていたように記憶している。Student、つまり「学ぶ者」とはアラゴンの長い詩の一節を借りれば「誠実を胸に刻む者」のことである。学生をアクティブな学習者に導くためには、教師もまた学ぶ者でなければならない。少なくとも誠実を胸に刻んだ若かりし日のことを忘れてはなるまい。アクティブ・ラーニングを実現するために、わたくしたちは手法のマニュアルやチップスを獲得するよりまえにしなければならない大切なことがあるように思う。

フォーラム・セミナー報告

第9回 FDフォーラムを開催しました

日時：7月12日（金）15：30～17：30
場所：第2学舎2号館　C507教室

7月12日に関西大学千里山キャンパスを会場に第9回FDフーラムを開催しました。名古屋大学高等教育研究センターの中井俊樹氏を講師としてお招きし、『アクティブラーニングの方法、道具、環境』という演題でご講演いただきました。

今回のFDフォーラムでは、中井先生からのご提案により、教授法の知見やノウハウを紹介するだけではなく、フォーラムの参加者に実際に課題を体験していただく時間を持ちました。知識や情報の提供を受けるだけではなかなかアクティブ・ラーニングの実現には結び付きにくいので、擬似的であっても、それを体験することが具体的なイメージを抱く上で大切であるとの認識からのご発案でした。それと同時に教師が陥りやすい落とし穴に気付くこと、これを回避するために留意すべきことなどについても身を以て知ることになればというご配慮もありました。いずれも教室でアクティブ・ラーニングを実践する上で不可欠のことがらだと思います。

参加者全員に配られた黄色い紙を教師役の中井氏からの指示にしたがって折ったり切ったりを繰り返したところ、教師が望む最終形にたどりついた参加者は極めて少数でした。参加者が教師のねらい通りに完成させることができないような「仕掛け」を中井氏は意図的に施したのですが、ここに教師が陥りやすい過ちを知るヒントがいくつも隠されていました。この「体験」を皮切りに、学生を主体的・能動的な学習者へと導くために、何が必要なのか、如何なることに留意をしなければならないのかについて、動機づけ・ARCSモデル・衛生理論を盛り込みながら明解にご説明いただきました。その後、お話は教師の発問の意義や価値、ディスカッションを成功させる秘訣など、より具体的な方向へと進み、限界と可能性を正しく認識すれば効果が期待される「小道具」についてもご紹介頂きました。

その他に、学生が能動的に学習するスペースとしてのラーニング・コモンズや図書館についても言及され、アクティブ・ラーニングに関する中井氏の造詣満載の講演会、フォーラムとなりました。

参加者からは、「自分の授業でためしてみられる具体的なお話がたくさんあり非常に参考になりました」「多様な視点から、理論・実践をまじえてのお話、大変参考になりました」など、体験型講演会を高く評価する感想をいただきました。

肝要なのは、参加者がこの「体験」を自らの実践に援用するために議論や情報交換を積み重ねていくことだと思います。アクティブ・ラーニングプロジェクトを進行中のCTLでは、そのための機会を提供したいと考えています。まずはCTLにお気軽にお立ち寄りください。

（教育推進部／教育開発支援副センター長　三浦真琴）

Learning Cafeを開催しました

コラボレーションコモンズ"Lincom"のライティングエリアでは、春学期からラーニングCaféをOPENしています。秋学期は全12回のCaféを開きました。このCaféは、教職員がオーナーをするケースと学生自身がオーナーをするケースがあります。

教職員がオーナーをつとめたCaféでは、プレゼンテーション（担当：岩﨑千晶助教）、リーディング（担当：佐々木知彦研究員）、ノートテイキング（担当：齊尾恭子研究員）をテーマとしました。各Caféでは、学生が日常的な学びの場ですぐに活用できるような汎用的なスキルの育成を目指しています。プレゼンテーションのCaféでは、実際に学生がゼミ大会で発表するスライドを持ちこみ、それに対して皆で議論をしました。リーディングの回では、卒論に取り組んでいる4年生の参加が多く、本を早く読むコツについて皆で意見交換をしました。

CaféのOPENは1時間で、毎回Caféオーナーからの15分程度のお話の後に、グループで話し合う時間を設けています。お茶を飲みながら和気あいあいとすすめていくのが特徴です。短い時間で、みなさんと話し、お菓子をつまみながら学ぶ楽しい時間ラーニングCaféは、来年度春学期もOPENする予定です。みなさん、是非いらしてくださいね！

（教育推進部　岩﨑千晶）

文学部3回生：山本綾香、社会学部3回生：大谷智美

学生Learning Caféでは、グループワークを行う際のスキルの育成をテーマにしました。具体的には、「司会と書記の役割」や、「意見をまとめるにあたって有効なブレインストーミングやKJ法」などを取り上げました。このテーマを設定した理由は、私たちのLAとしての経験に基づいています。私たちは共通教養科目の初年次教育科目であるスタディスキルゼミ（スタスキ）にラーニングアシスタントとして活動しています。授業では、「グループワークってどうすればいいんだろう…」「司会ってなに?」「意見ってどうやってまとめるの?」と悩んだり、戸惑っていたりする学生を見かけます。そんな学生の声を聞き、「授業外でも、もっと気軽にスタスキのような学びの場所を作りたい!」と思い、学生Learning Caféを始めました。実際に企画や運営をしてみると、ワークを考えるのに苦労するなど大変なことはたくさんあります。しかしこの経験が、自分の学びや成長にもつながっていて、楽しく、やりがいを感じています！

Learning Cafeの様子

初年次生を対象にした授業外ライティング講座を開講

大学間連携共同教育推進事業の取組の一環として、ライティングラボでは昨年度に引き続き、初年次生を主対象に授業外のライティング講座を開講しています。

今年度春学期は、「レポートの書き方ワンポイント講座」と題した授業外講座を千里山、高槻ミューズ、堺の各キャンパスで行いました（主担当：小林至道特任助教）。開講回数は、それぞれ9回、3回、1回で、合計すると200名以上の学生が受講しました。なお、高槻ミューズおよび堺キャンパスでの開講は、今後の本格的な全学展開を見据えた試みです。

秋学期も、千里山および堺キャンパスで授業外講座を開講しています。ただし、講座名は「文章表現ワンポイント講座」で、春学期と異なります。それは、春学期はレポート作成能力の育成に特化した講座であったのに対し、秋学期は汎用的ライティング能力の育成を目標にした講座であることによります。千里山キャンパスで行った講座の日時、内容等は、次のとおりです（担当：林田）。

第１回	10月 8日	12:20～12:50	文章の基礎（1）	なぜ伝わりにくいのか？	第1学舎1号館5階
第２回	10月15日	12:20～12:50	文章の基礎（2）	文章のタイプ	第1学舎1号館5階
第３回	10月22日	12:20～12:50	文章の基礎（3）	レポートとは何か？	第1学舎1号館5階
第４回	11月12日	12:20～12:50	文章を読む（1）	読み方のいろいろ	第1学舎1号館5階
第５回	11月19日	12:20～12:50	文章を読む（2）	ショートショートを読む（初級編）	第1学舎1号館5階
第６回	11月26日	12:20～12:50	文章を読む（3）	ショートショートを読む（上級編）	第1学舎1号館5階
第７回	12月 3日	12:20～12:50	レポートを書く（1）	全体の構成	第1学舎1号館5階
第８回	12月10日	12:20～12:50	レポートを書く（2）	段落の構成	第1学舎1号館5階
第９回	12月17日	12:20～12:50	レポートを書く（3）	引用の方法	第1学舎1号館5階

来年度も、ライティングに関する授業外講座を開講します。本講座をより有意義なものにするため、教職員の皆様におかれましても、さらなるご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

（教育推進部　林田定男）

Learning Assistant

LA活動報告

学生FDサミットに参加しました！

2013年夏の学生FDサミットが、8月24日、25日に、立命館大学衣笠キャンパスで、「大学を変える、学生が変わる」をテーマに行われました。北は北海道から南は鹿児島まで総勢49の学生団体が集まりました。学生FDサミットとは自分たちの大学や授業をより良いものにしていこうという活動をしている学生や教職員が集まって、活動を共有したり、意見を交換したりする場です。私たちLA（ラーニングアシスタント）も、参加し、他学の学生たちとディスカッションし、LAの日々の活動をポスターセッションで発表報告してきました。各大学の学生団体の活動の様子はポスターセッションという形で発表されました。

関西大学のLAもポスターセッションで発表しました。私たちのポスターは「一目でLAの活動が伝わり、つい見たくなる楽しいデザイン」にすることを心がけました。そのため、活動を花やミツバチなどに例えて表現したり、画用紙を切り貼りしたり、文字よりも絵を多く描くようにし、手づくり感たっぷりの温かみのあるものを準備して臨みました。

ポスター総選挙で1位獲得

当日はそのポスターが好評をいただき、ポスターセッションに参加した45団体で競う「ポスター総選挙」で、なんと、1位に選ばれました。

FDサミットに参加するという機会に、ポスターセッションの準備をLAの仲間たちと準備をしていく作業を通じて、これまでのLA活動についてもふりかえり、改めて考えることができました。と同時に、たくさんの他大学の学生や教職員の方々と意見を交換し、いろいろな大学の活動を共有することができました。このような貴重な経験を糧にしつつ、これからも本学でのLAのあり方について考え、LA活動に取り組んでいきたいと思います。

（参加LA一同:文学部4回生 牧野晃大、商学部4回生 藤本夏子、文学部3回生 山本綾香、社会学部3回生 大谷智美、社会学部3回生 高橋海咲、社会学部2回生 浦野亮太）

（教育推進部　山本敏幸）

ポスターの前で熱弁するLA

教育開発支援センターからのお知らせ

学外からの来訪・講演依頼について(2013年度)

関西大学教育開発支援センターでは、学外からの訪問や講演依頼にも積極的に対応しております。今年度は、「アクティブ・ラーニング」や、新たに本学に開設された「コラボレーションコモンズ」に関して、特にご依頼を頂いております。学内外問わず、これらのトピック以外でも、高等教育に関することはお気軽にお問い合わせください。 (CTL事務局)

●学外からの来訪

来訪大学	来訪日	来訪目的
国立台湾大学	4月23日(火)	FDに関する情報交換
熊本大学	6月 7日(金)	ライティングラボ視察
立命館大学	7月 5日(金)	スポーツ推薦入学生の修学支援
福岡工業大学	7月12日(金)	授業評価に関するヒアリング
立教大学	7月18日(木)	コラボレーションコモンズ視察
甲南大学	7月23日(火)	アクティブラーニングに関する取組ヒアリング
西オーストラリア大学	7月25日(木)	FDに関する情報交換
大学コンソーシアム京都	7月25日(木)	コラボレーションコモンズ視察
美作大学	9月 2日(月)	コラボレーションコモンズ視察
神戸女子大学	9月 2日(月)	コラボレーションコモンズ視察
中央大学	9月19日(木)	アクティブラーニングに関する取組ヒアリング
筑波大学	10月 1日(火)	コラボレーションコモンズ視察
大阪大学	10月 8日(火)	事務担当者意見交換、コラボレーションコモンズやライティングラボ視察
大阪工業大学	10月22日(火)	コラボレーションコモンズ視察

●学外からの講演依頼

講演先	講演日	テーマ・担当教員
筑波大学	6月26日(水)	「学習支援サービス人材養成のためのライティング支援セミナー」(教育推進部・小林至道特任助教)
甲南大学	7月30日(火)	「Active Learning入門一歩前」(教育推進部・三浦真琴教授)
聖路加看護大学	8月 7日(水)	「大学教育のFuture Design」(教育推進部・三浦真琴教授)
明治大学	8月 9日(金)	「『三者協働型アクティブ・ラーニングの展開』について」(教育推進部・三浦真琴教授)
東京富士大学	8月21日(水)	「アクティブ・ラーニング」(教育推進部・山本敏幸教授)
四天王寺大学	9月 3日(火)	「大学教育のFuture Design」(教育推進部・三浦真琴教授)
宇都宮大学	9月27日(金)	「アクティブ・ラーニングによる教育の現状と実践的課題」(教育推進部・三浦真琴教授)
大阪経済大学	10月25日(金)	「大学教育のFuture Design」(教育推進部・三浦真琴教授)

From CTL事務局

3年生の就職活動がスタートした。企業が新卒採用に重視する上位は「コミュニケーション力、協調性、主体性」(経団連)であるそうだ。一方、文部科学省が「今正に我が国に求められているもの」と指し示しているものは「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」(教育振興基本計画)であり、「主体性」や「主体的」が、実業界と教育行政に共通するキーワードであるようだ。

私が大学に入学した頃は、高校と異なる授業の進め方に戸惑い、難解な文章や初めて目にする専門用語に大きな壁を感じた。それでも「大学に行ったら、やりたいことを自分で見つけて努力しろ!」との恩師の言葉を思い出しながら、主体的に司法試験(旧方式)を目指したのだが、正直なところ「かなり辛かった。」という印象である。

最近はどうだろう。CTLでは、教員が一方的に知識を伝えるのではなく学習者が主体となるアクティブラーニングの考え方を採り入れた授業の進め方の開発・普及が追求されている。また、理解しやすい授業を提供すべくFDにも取り組まれており、壁はかなり乗り越えやすくなっているものと思う。

ただ、主体性は手取り足取り教えられるものではない。大学が出来ることは、学生諸君が何かに取り組める環境を用意することであって、壁を乗り越える資質は自ら養成しなければならない。企業は必ずしも興味ある仕事を提供してくれるとは限らない。世代が異なる上司やウマの合わない同僚とのコミュニケーション力、組織が目指すベクトルを理解する協調性も兼ね備えなければ、「主体性」を発揮する場は得られない。これらは大きな壁になるかもしれない。「今の大学生が羨ましい。」と思う反面、学生時代に「主体的」に壁にぶつかっておく経験は無駄ではないと思うが、学生諸君はどう考えるのだろうか。

(誠)

THINK × ACT 関西大学 KANSAI UNIVERSITY

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514
http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html

発行日/2013年12月20日 編集・発行/関西大学教育開発支援センター